

B—50 化繊織物の日光および紫外線による脆化 (第5報)

三重大教育 薄田 京子

1. 消費科学的な見地から、化繊織物の日光や雨露に対する抵抗性を知るために、ポリプロピレン系、アクリル系の疎水性繊維並びにキュプラ、もめんの4試料を210日期間屋外に暴露し、ウェザリングによる脆化傾向を強伸度と色相の変化につき調べた。

2. 試験期間は昭和42年8月より43年3月までの210日期間、水平方向の露光による。

強伸度はショッパー型織物抗張力試験機を用い、測色は日立分光光度計によった。

3. ポリプロピレン系繊維は、日光、日光および雨露による強伸度低下が著しく、ウェザリングに対する抵抗性は極めて低いことを認めた。また、疎水性でありながら雨露による脆化はかなり顕著である。

アクリル系繊維は、日光に対する抵抗性が大きく、雨露による影響は少ない。

もめん、キュプラ等セルロース系繊維は、共に耐光性が優れているが、雨露による劣化がみとめられた。

測色：アクリル系、ポリプロピレン系は、露光の初期より白度低下がみとめられた。キュプラは白度保持効果が高く、白度低下は4ヶ月以降にみられた。もめんの白度保持効果は、キュプラより若干低く、白度低下は露光